

科目内容

領域	マネジメントに関する領域
科目名	介護業務の標準化と質の管理
教育目的	・ 自職場における実践を介護業務の視点から整理し、サービスの質の評価と改善に向けた検討を行うことができる力を獲得する
到達目標	・ サービスの質の評価の枠組みに関する基礎的な概念について説明できる。 ・ プログラム評価の考え方について説明できる。 ・ 論理的思考に基づいて実践を業務の視点から整理し・記述することができる。 ・ 上記を踏まえたうえで、自職場の実践を科学的・客観的に記述、評価し、サービスの質の改善に向けた検討、業務の標準化に向けた基準づくりや組織化計画を検討することができる。
時間数	30時間
含むべき内容	○ヒューマンサービスの特性 ○サービスの質の評価の枠組み ・ ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方 ・ プロセス評価とアウトカム評価 ・ 技術的部分（科学的根拠）と対人関係的部分 ・ 既存の「評価」の意味と意義（第三者評価、報酬の加算・減算など） ○実践の記述と分析 ・ プログラム評価の考え方（インパクト理論、プロセス理論、フィディリティ評価等） ・ 経験学習に基づく実践の言語化、構造化、抽象的概念化、（演習含む） ・ 論理的思考に基づく自職場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討（課題学習と演習） ○介護業務の標準化と管理 ・ 対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム ・ 介護業務基準、業務と実践の捉え方（演習含む） ・ 指導的立場にある者の職務（内省支援、業務支援、精神支援等）、学習する組織の重要性 ・ 可塑性を行動レベルではなく思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方（演習含む）
留意事項等	○集合研修（講義）と演習によって研修を展開する。
課題学習の可否	全部可・一部可・否 課題学習は15時間を超えない配分とする
修了評価の方法	筆記試験、レポート 【試験による評価】 ○筆記試験（基礎知識の定着、10～20問程度） 【レポートによる評価】 ○研修で学んだ理論や考え方を振り返ったうえで、より大きな視点で介護業務の標準化について考えを深められる課題とすることが望ましい。
受講要件	・ I類を修了していること ・ 「介護サービスの特性と求められるリーダーシップ、人的資源の管理」を修了

	していることが望ましい
講師要件	<ul style="list-style-type: none">・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること・修士課程を修了している介護福祉士であることが望ましい・介護福祉士として指導的立場で5年以上の経験があり、実践の評価と改善に取り組んでいる者が望ましい